

大学・地域共創プラットフォーム香川 第2回進学・教育部会「地域における高等教育の中長期グランドデザイン検討会」議事概要

1 取組について

「地域における高等教育の中長期グランドデザイン検討会」を、進学・教育部会の令和5年度事業計画に組み込み、大学等の地域における教育改革や教育改善につなげる中長期グランドデザインを検討することとした。令和5年度はSD研修として外部講師を招聘しての研修会を開催した上で、協議を行った。また、「地域における高等教育の中長期グランドデザイン」については、今後も継続して協議を行うこととしている。

2 研修会及び協議概要について

(1) 研修会

講演: 令和5年9月22日(金) 10:00~11:15

講師: 小林浩氏(リクルート進学総研 所長)

演題: 「地方大学の新たな選択肢～これからの魅力ある地方大学とは～」

参加者: 27名

(2) 協議概要

協議: 令和5年9月22日(金) 11:30~12:05

議題: 高等教育のグランドデザインに係る取組について

出席者: 佐々木委員(香川県)、平川委員(香川県立保健医療大学)、吉永委員(香川高等専門学校)、今井田委員(香川大学)、

勘原委員(香川短期大学)、山田委員(四国学院大学)、平畑委員(高松大学・高松短期大学)、中筋委員(徳島文理大学)

助言者: 小林浩氏(リクルート進学総研 所長)

【委員からの主な意見】

○受験者数減少で危機感を持っている。看護師、臨床検査技師及び高度専門職業人となるための教育を大学及び大学院で行うとともに、リカレント教育として専門職向けの講習会や実技に関する研修会を開催している。

小・中学生時から保健医療に興味を持ってもらうため、県内の医療系3大学と連携しての「中学生・高校生のサイエンスキャンプ」や本学独自の小学生とその保護者を対象とした「ライフサイエンス教室」を開催している。

今後はインナーコミュニケーションの活性化に向けて危機意識を持って取り組みたい。

○中期計画では内部質保証を進めるという点で、ポートフォリオ教育、教学マネジメントの実施などに取り組んでいる。本学のブランド力をどう高めていくのか 何を看板として掲げるのかが課題である。そういったことが、香川に学生が残らないことと結びついているのではないかと。

○リカレント教育の充実として、令和4年度に再編した地域人材共創センターが中心となり幅広い年齢層を対象とした生涯教育を進めている。

初等中等教育との接続として、令和4年度から全額共通教育において高等学校から大学への学びの転換を丁寧にサポートする体制を強化した。新たに開設した科目で学問や研究について大学生らしい学びの習慣となるよう学生に伝えることを目指している。分野横断教育、分野融合教育として、令和4年度から大学院の文系である経済学研究科、法学研究科、教育学研究科と工学研究科を融合して、創発科学研究科を開設した。令和6年度からは博士後期課程を設置することとなり、博士前期課程と後期課程で一貫した分野横断教育を行おうとしている。

数理・データサイエンス・AI教育では、四国ブロック代表校となり、四国の拠点校として取組を進めている。「危機管理学×数理・データサイエンス・AI教育」を本学だけでなく、香川県内及び四国内で展開しようとしている。

大学間連携による教育プログラムでは、四国5国立大学が四国地域大学ネットワーク機構を設立し、「大学等連携推進法人」認定を受けて、法人全体で教員養成課程を作っており、いい形でスタートできている。

○高校生数が減少していることを念頭に、学科での質保証に取り組まなければならない。

子ども学科では、新たな取組として「高校生おもちゃ甲子園」を立ち上げ、全国から100件の応募があった。これは、子ども学科が常に家庭科教員を訪問し連携が取れていること、高校としても家庭科での学びを発表する場ができたことが背景にある。今後さらに連携強化が必要である。

食物栄養専攻では、県内の小学校から始まった「弁当の日」を発端として、「高校生お弁当の日甲子園」に取り組んできた。毎年テーマを決めて開催しており、今年度は150件の応募があった。高校の家庭科の先生との連携がうまく機能していることが成果となって表れている。

経営情報科では、デザインアートコースが常に高校の美術の先生を訪問して信頼関係を作っており、デザイン志向をもった高校生が本学でいろいろな分野を学べるのが強みになっている。

こうした各学科の強みが上手く県内の高校に伝わっているが、地元だけに拘るのではなく中四国・九州地域にも広げていきたい。

○20のメジャー(主専攻領域)と4つのマイナー(副専攻領域)を導入しており、人文科学や社会科学を横断的に学べる体制を取っている。すべての学生は2年次よりメジャー・マイナーを選択するので、入学時の学部から変わることもある。3年前に科学系のマイナー(副専攻領域)を導入したので、文理融合に近い学びができており、また演劇のメジャー・マイナーも加えることにより、STEAM教育も視野に入れることができる。西讃地域にある唯一の四年制大学として、また香川県が四国の他3県の地元残留率が約半分であることも考慮して、グランドデザインに対応しつつ、地元に残ってもらえるような教育に力を入れたい。

○データサイエンス関係の授業は、これまで経営学部で開講していたが、教育系の発達科学部や短期大学にも共通科目として広げている。入学した

すべての学生に数理データサイエンスについて学ばせ、知識を修得して卒業させるという方針で取り組んでいる。

大学・短大ともブランド力をどのようにつけるのかに苦慮している。短大は学科名や教育内容も変更して対応している。

○高校生数が減少していること、近年の自県大学進学率が 17%台から上がらないことなど、危機感を持ちながら入学者数の確保に努めている。情報を基盤とした社会において必要となる知識・技能を文理横断的に養成するため、令和 5 年度は、1 年生の必修科目「文理学」において、「数理・データサイエンス・AI 入門」と題し、電子情報工学科や総合政策学科などの教員が担当して、7 コマの講義を実施している。講義内容は、「数理・データサイエンス・AI をなぜ学ぶのか」「数理・データサイエンス・AI をどのように学ぶのか」「データサイエンス力を身につけよう」「学習するコンピュータとその応用」「デジタル社会の基礎知識」「AI 技術とデータ解析の基礎知識」「データ・AI 活用で必要な統計学の基礎」となっている。